

「くりはら」156号



収穫を迎えた伊豆沼レンコン

伊豆沼周辺では、豊かな水源を生かし1980年頃から食用レンコンの栽培が行われています。この地域はレンコン生産地の北限とされており、11月頃から3月頃まで収穫作業が続くため、極寒の中作業が行われています。

収穫されたレンコンは、根や土を綺麗に洗い流し、地元直売所やスーパーなどに向けて出荷されています。

寒さで甘みの増した伊豆沼レンコンを是非ご賞味ください。

令和5年度プロジェクト課題活動報告

課題NO.1 人と環境にやさしいズッキーニ栽培と収益力の向上

JA新みやぎ栗っこズッキーニ部会を対象とし、環境負荷低減と軽労化支援による産地の維持・発展を目標として活動しました。

技術面では、廃プラスチックの削減と軽労化を目的として、「生分解性マルチ」の現地導入試験を実施し、利用拡大を図りました。また、着果させるために雌花1つ1つをホルモン剤によって処理する必要があり、この作業負担が課題でした。関係機関とロングノズルの付いた「ホルモン処理専用スプレー」を試験導入したところ、軽労化に繋がったと生産者から高く評価いただき、今後の利用拡大が期待されます。

産地PRでは、報道機関への投げ込みや広報

誌への掲載などを通じて、テレビ局4社から計6回の取材依頼があり、効果的にPR活動することができました。引き続き栗っこズッキーニの産地維持・発展に向けて支援していきます。



【ズッキーニ部会実績検討会の様子】

課題NO.2 金成津久毛地区における高収益作物導入・定着

金成津久毛地区で加工用ばれいしょの導入・定着へ向けた支援を2か年実施してきました。

この間、普及センターでは、実証ほを設置し、生育・収量調査の情報提供や先進地視察の実施、栽培暦の作成・配布のほか、カルビーポテト(株)と連携した現地検討や栽培振り返りなどを行いました。

例年になく高温の影響を受け、目標とした収量に至りませんでした。支援対象は、加工用ばれいしょ栽培の留意点などを把握・整理することができ、次作へ活かされるものと思います。

今後、地区では加工用ばれいしょを含め、大

規模な高収益作物の取組が計画されていますので、引き続き導入・定着に向け支援していきます。



【カルビーポテト(株)と連携した現地検討】

課題NO.3 集落営農における大豆生産及び法人経営の安定化

若柳地区の「農事組合法人ふくおか」を対象とし、大豆の収量・品質の向上のため、精度の高い作業のポイントの習得について研修会を開催し、耕起、播種、中耕培土、摘芯の各作業での機械の設定と実施のポイントを習得することができました。

各作業を適期に実施するため、予めほ場を巡回し、実施時期の判断について、助言するとともに、作業計画作成を支援しました。

特に、茎葉処理除草剤散布では、中耕培土作業との順番を付けることで、適期に散布することができ、雑草の発生を減少させ、収穫前の

手取り除草作業にかかる時間を大幅に削減できました。また、大豆の収量が令和4年に比べて増加し、収益も向上しました。



【摘芯の適期判定のための研修会】

気候変動への対策技術について

水稲種子使用の留意点

水稲種子における休眠は、登熟期間中の高温で強くなることがあります。高温下で登熟した令和5年産水稲種子は、普及センターで行っている発芽能力の検査において、休眠打破に通常年よりも日数を要しました。

新潟県農業総合研究所作物研究センターの試験では(板谷越ら)、種子の出芽前の浸漬について、水温5℃の場合、積算水温100℃としても発芽率の向上は向上しにくく、水温15℃、積算水温140℃にすることで発芽率の向上が見られました。

よって、令和5年産水稲種子を使用した浸種については、水温に留意して作業を行いましょ。

果樹の凍霜害対策

今年も平均気温が高めに経過しており、果樹の生育が早まることが考えられます。

りんご、ももなどは、蕾の発育が進むにつれて凍霜害を受けやすくなります。開花期や結実直後の幼果期が最も危険な時期で、 -2°C ～ -1°C の低温に30分以上遭遇すると被害が発生する危険があります。そのため、霜注意報等が出た場合は、防霜用燃料資材による燃焼法や防霜資材の散布等により霜害対策を実施しましょう。

なお、燃焼法を実施する場合は、事前に消防署へ届出書を提出しましょう。

みやぎ農業未来塾 in くりはら 「将来の農業経営像を描こう！」

令和6年2月15日(木)に、栗原合同庁舎において、就農1～5年目の新規就農者(雇用就農を含む)等を対象に、みやぎ農業未来塾inくりはら「将来の農業経営像を描こう！」を開催しました。

研修会では、「株式会社石ノ森農場」の代表取締役である山内健太郎氏より、「親元経営から法人経営へ。新たな経営展開へのポイント」と題して、基調講演をいただきました。

親元就農後に農業法人を設立、情報通信技術を活用した複合環境制御システムによる施設きゅうり栽培を導入するなど、今なお成長を目指

す姿は、新規就農者にとって大きな刺激になったようです。



【みらいを担う農業者が集まりました】

令和5年度栗原地域園芸振興セミナーを開催しました！

栗原地域における土地利用型園芸作物の生産拡大を目指し、栗原市と新みやぎ農業協同組合と共催で園芸振興セミナーを開催しました。当日は関係者含め70名にご参加いただきました。

今回のセミナーは緑肥および堆肥を活用した土づくりをテーマとして開催しました。緑肥については、カネコ種苗株式会社 くにさだ育種農場の西本様にご講演いただき、緑肥を導入するメリットや園芸品目との利用体系について説明いただきました。堆肥を活用した土づくりについては、当普及センターの野菜担当者が堆肥を利用する意味を化学的な面から解説しました。

参加者からは、次作から力を入れて土づくりに

励みたいとの声がありました。栗原農業改良普及センターでは、今後も園芸作物の生産拡大に向けて支援していきます。



【多くの方々にご参加いただきました】

品評会で栗原市産品が多数受賞しました！

令和5年度の品評会は、品目を絞り、開催時期・方法を各品目ごとに定めて開催されました。

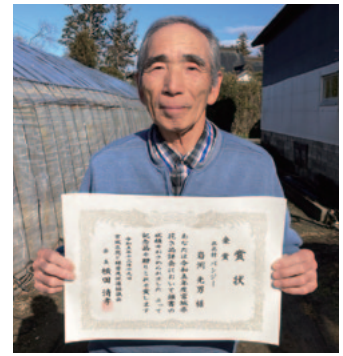
栗原管内からは、花き14点、うるち玄米14点、りんご1点が出品されました。

審査の結果、下表の6名の方々が受賞され、栗原市産品の品質の高さをアピールすることができました。

受賞された皆様、誠におめでとうございます。



【宮城県知事賞:狩野農友様】



【金賞:岩瀬光男様】

【令和5年度宮城県農林産物品評会・花き品評会受賞結果一覧】

部門	受賞品目	受賞者名	受賞内容
うるち玄米	ひとめぼれ	有限会社 狩野農友	宮城県知事賞(2等) 農産局長賞
花壇用苗もの類	パンジー	岩瀬 光男	金賞・宮城県議会議長賞
切り花・枝もの類	デイスバットマム	白鳥 幸彦	銀賞
切り花・枝もの類	デイスバットマム	白鳥 光子	銀賞
花壇用苗もの類	ビオラ	早坂 清	銀賞
花壇用苗もの類	ビオラ	岩瀬 昭彦	銀賞

「みどり認定」の“宮城県第1号”！

環境負荷低減に取り組む事業者を認定する「みどり認定」の“宮城県第1号”として、株式会社宮城白鳥農場と有限会社ライスサービスたかはしが認定され、12月18日に宮城県庁で授与式が行われました。

県では、環境と調和のとれた食料システムの確立に向けて、環境の負荷の低減を図る取り組みを推進しており、本認定は、その一環となるものです。

今後両法人はそれぞれ中干しの延長、堆肥施用などに取り組めます。



【白鳥代表(左)と高橋代表】

有限会社川口グリーンセンターが日本農業賞大賞受賞！

第53回日本農業賞の個別経営の部で、栗原市一迫の有限会社川口グリーンセンターが大賞を受賞しました。

日本農業賞は、日本農業の確立をめざして、意欲的に経営や技術の改善に取り組み、地域社会の発展にも貢献するとともに、食や農の担い手とし

て先進的な取組をしている個別経営・集団組織を表彰するものです。

同賞は全国農業協同組合中央会とJA都道府県中央会、NHKが主催しており、表彰式は令和6年3月9日(土)に東京都渋谷区のNHKホールで開催されます。この度は誠にありがとうございました！

乗用トラクター運転時にはシートベルトやヘルメットを着用し農作業安全を徹底しましょう。

栗原農業改良普及センター 〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木 5-1 Tel:0228-22-9404 Fax:0228-22-6144

